きるん

発行所
北九州市小倉北区西港町16
日鉄高炉セメント株式会社
編集兼発行者
大原和彦
印刷所
富士印刷株式会社

無災害連続
北九州　75日
室蘭　650日
8月25日 現在

従業員数
8月1日 現在
男子　307名
女子　51名
合計　358名
（うち、出向者14名）

《社長トップメッセージ》
統合会社として初めての社内報「きるん」発行に寄せて



社長　江頭秀起

皆さん、ご安全に。

26年４月の経営統合から４か月が過ぎ、新生「日鉄高炉セメント株式会社」として初めて、全社版の社内報「きるん」を発刊する運びとなりました。旧日鉄セメント社で長く親しまれてきたこの名前を受け継ぎ、旧高炉セメント社で発刊していた「高炉だより」を包含し、北九州、室蘭、本社、各支店、そして関係会社を結ぶ情報発信の場として新たなスタートを切れることを、大変うれしく思います。

まずは、統合準備の段階から今日に至るまで、通常業務に加えて数え切れないほどの確認や調整、制度改定、システム対応などに尽力してくださった皆さんに、心より感謝申し上げます。新会社のスタートは、決して経営陣だけで実現できるものではありません。一人ひとりの支えがあってこそ、ここまで歩みを進めることができました。

改めて自己紹介をさせていただきます。私は福岡県北九州市の出身で、86年に新日本製鐵（現・日本製鉄）へ入社しました。高炉を中心に製銑工程の担当を経て、15年に日鉄高炉セメントへ入社、同年より社長を務めてまいりました。そして本年４月、統合新会社の社長を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。

この数か月、私は室蘭に生活拠点を移し、室蘭をはじめ北日本の拠点を訪問し、多くの皆さんと直接お話ししてまいりました。日鐵生コン会、ロータリーキルン会、室蘭ねりこみ、隣友会など、各種会合・行事にも参加いたしました。その中で改めて感じたのは、北九州にも室蘭にも、それぞれの歴史の中で培われた誇りや技術、そして何より人の力があるということです。仕事の進め方や文化には違いがあります。しかし私は、その違いは乗り越えるべき壁ではなく、お互いに学び合うための財産だと考えています。統合によって生まれる価値とは、組織をひとつにすることではなく、それぞれが持つ強みを共有し、新たな力に変えていくことです。

当社を取り巻く環境は決して楽観できるものではありません。国内セメント需要は長期的な減少傾向にあり、エネルギー価格、人件費、物流費、設備維持費なども上昇を続けています。一方で、カーボンニュートラルや資源循環に対する社会の期待はこれまで以上に高まっています。こうした中で、高炉セメントや高炉スラグ微粉末をはじめとする当社製品が果たす役割は、ますます大きくなっています。

私たちは日本製鉄グループの一員として、鉄鋼製造の副産物を有効活用しながら、社会インフラを支える材料を安定供給してきました。この使命は統合後も変わりません。むしろ、北九州と室蘭という２つの生産拠点、両社が培ってきた技術や商品、営業力、研究開発力を結集することで、これまで以上に大きな価値を社会へ提供できる会社にならなければなりません。統合の目的は合理化ではありません。両社の強みを融合し、１＋１を２プラスαにすることにあります。

もうひとつ、私が強くお伝えしたいことがあります。それは、私たちの仕事の先には必ずお客様と地域社会が存在するということです。セメントや建材製品、石灰製品は、施主の皆様、建設会社の皆様、生コンクリート会社の皆様、そして多くの需要家の皆様によって活用されています。また、工場や事業所を運営するうえでは、地域住民の皆様のご理解とご支援が欠かせません。

私たちが毎日行っている操業、品質管理、設備保全、安全活動、営業活動の一つひとつは、そうした皆様からの期待に応えるためにあります。安定した品質の製品を供給すること。納期を守ること。環境負荷の低減に取り組むこと。地域社会の一員として責任ある行動を続けること。こうした当たり前の積み重ねこそが信頼を生み、その信頼が会社の未来を支えます。私は、施主・需要家・地域の皆様から「日鉄高炉セメントがあって良かった」と言っていただける会社であり続けたいと考えています。そのためにも、社員一人ひとりの仕事が社会とどうつながっているのかを常に意識しながら行動していきたいと思います。

新会社の基本理念には、『人と社会を支え、次世代のために今を築き、豊かな社会の発展に貢献します』という考え方があります。この理念は、単なる標語ではなく、日々の仕事の判断基準でありたいと思っています。目の前の安全確認、品質確認、設備点検、営業先での説明、伝票やシステムの処理、地域の方々への対応。その一つひとつは地道な仕事ですが、全てが社会を支える仕事です。私たちが今日、誠実に取り組むことが、次の世代に引き継がれる会社の姿をつくっていきます。事業面では、旧両社が持つ製造・出荷拠点、販売体制、技術、商品を最大限に生かしていきます。高炉セメントや高炉スラグ微粉末だけでなく、固化材、セルフレベリング材、グラウト材、注入材、補修材、石灰製品など、地域や用途に応じて磨かれてきた多様な商品があります。これらを南北にまたがって展開し、営業、技術、製造、品質、管理が一体となってお客様の困りごとに応えることで、新しい価値を生み出せるはずです。

もちろん、厳しい経営環境に向き合う覚悟も必要です。需要減少やコスト上昇は、気合いだけで乗り越えられるものではありません。適正な販売価格の実現、設備投資の優先順位付け、物流や調達の効率化、システム統合、内部統制、コンプライアンス、人材確保と育成など、課題は山積しています。しかし、課題が多いということは、変えられる余地が大きいということでもあります。社員が安心して誇りを持って働ける会社にするため、全員で知恵を出し合い、一つひとつ前に進めていきましょう。

統合後の大きなテーマは、やはり「融和」です。北九州と室蘭は地理的にも離れており、歴史や文化にも違いがあります。しかし、双方をよく知り、お互いを尊重しながら力を合わせることで、必ず大きな成果につながると確信しています。既に多くの会議や交流を合同で実施しています。私自身もできる限り現場に足を運び、皆さんとの対話を重ねていきたいと思います。WEB会議での画面越しでも仕事はできますが、顔を合わせて話すことでしか生まれない信頼関係もあります。遠距離であることを言い訳にせず、統合会社としての一体感を育んでいきたいと思います。

また、統合したからこそ、これまで以上に大切にしなければならないのが安全・環境・防災です。安全・環境・防災をすべてに優先するという考え方は、新会社になっても決して変わりません。気付いたことを言い合える職場。困ったときに相談できる職場。お互いを尊重し支え合える職場。そうした風通しの良い職場づくりこそが、強い会社の基盤になると考えています。

この会社をより良くしていく主役は、社員の皆さんです。現場での気づき、営業先で聞いた声、品質や設備に関する小さな違和感、地域の方々との日々の会話。そうした一つひとつを大切にし、部門や拠点を越えて共有することで、会社は確実に強くなります。

最後に、この「きるん」への期待をお伝えしたいと思います。私は、この社内報を単なる会社からのお知らせの場にはしたくありません。各拠点の取り組み、現場の工夫、仲間たちの挑戦、地域とのつながりなど、社員一人ひとりが主役となる情報発信の場にしていきたいと思っています。誰かの仕事を知ることは、その人への敬意につながります。遠くの拠点の出来事を知ることは、自分たちの会社の広がりを実感することにつながります。ぜひ読者としてだけでなく、情報提供者としても積極的に参加してください。

統合会社としての本当の強さは、設備や拠点の数だけで決まるものではありません。最後に会社を支えるのは人であり、その力は社員同士の信頼、そして施主・需要家・地域の皆様から寄せられる信頼によって更に大きなものになります。社員の皆さんとともに、お客様や地域社会の期待に応え続ける会社を築いていく。その結果として、社員が安心して誇りをもって働き続けることができる。そのような会社にしていきたいと思います。これからの日鉄高炉セメントの新しい歴史を、皆さんと一緒に創っていきましょう。よろしくお願いいたします。ご安全に。